

1. 授業評価の実施状況

- ・評価項目：アンケートを添付資料の表 1 に示す。
- ・実施科目数：116 科目
- ・回収率：平均 89.7%

2. 対象と方法

対象は、島根リハビリテーション学院に在籍する 1～3 年生両学科 141 名（令和 6 年度 3 月末在籍数）とした。

調査を行う科目は、理学療法学科と作業療法学科の学生が共通して受講する共通科目、理学療法学科の学生のみが受講する PT 科目、作業療法学科の学生のみが受講する OT 科目の 3 つに分類した。

対象者には事前に、個人を特定されない配慮とアンケート結果が成績に反映されない事を説明した上で実施した。アンケートの実施は、最終授業終了後にアンケート回答サイトの Web リンクから回答を行わせた。

アンケートは、「学生の姿勢」と「授業に対する評価」の 2 項目に分かれ、「学生の姿勢」の質問文数が 5 つ、「授業に対する評価」の質問文数が 15 である。（表 1）。学生には各項目の質問文に対して、5 段階のリッカート尺度（5 点：そう思う、4 点：ややそう思う、3 点：どちらでもない、2 点：あまりそう思わない、1 点：そう思わない）のうちもっとも当てはまるものを選択させた。得点は、質問文ごとの平均点と項目ごとの平均点を算出することで得られ、最低点は 1 点、最高点は 5 点であり、得点が高いほど学生による授業評価が高いことを示す。

3. 学生による授業評価結果

結果を添付資料の表 2～15 に示す。

4. 結果

1) 学生の姿勢

(1) 科目別

令和 6 年度に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目に対する「学生の姿勢」のうち、科目別の平均得点および質問項目ごとの平均得点を表 2 に示す。令和 6 年度に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目における「学生の姿勢」の平均得点のうち、4.0 点未満を示したのは、共通科目であった。PT 科目と OT 科目は、R5 年度と比べて 0.18 点の減点がみられたものの、アンケートの選択肢の中央値の 3 点よりも高い 4.0 点以上であった。

(2) 学年別

令和 6 年度に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目の「学生の姿勢」のうち、学年別の平均得点および質問項目ごとの平均得点を表 3 に示す。令和 6 年度 1 年生に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目における「学生の姿勢」の平均得点のうち、4.0 点未満を示したのは、共通科目と PT 科目であった。共通科目と PT 科目の平均得点は、アンケートの選択肢の中央値の 3 点よりも高かつ

た。

令和 6 年度 2 年生に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目における「学生の姿勢」の平均得点のうち、4.0 点未満を示したのは、共通科目と PT 科目であった。共通科目と PT 科目の平均得点は、アンケートの選択肢の中央値の 3 点よりも高かった。

令和 6 年度 3 年生に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目における「学生の姿勢」の平均得点のうち、4.0 点未満を示した科目はなく、すべての科目が 4 点以上を示した。

2) 授業評価

(1) 科目別

令和 6 年度に実施された科目に対する「授業に対する評価」のうち、科目別の平均得点および質問項目ごとの平均得点を表 2 に示す。共通科目、PT 科目、OT 科目における「授業に対する評価」の平均得点、質問項目ごとの平均得点を表 2 に示す。令和 6 年度に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目における「授業に対する評価」の平均得点のうち、4.0 点未満の科目は無かった。すべての科目で、R5 年度と比べて最大 0.12 点の減点がみられたものの、アンケートの選択肢の中央値の 3 点よりも高い 4.0 点以上を示した。

(2) 学年別

令和 6 年度に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目の「授業に対する評価」のうち、学年別の平均得点および質問項目ごとの平均得点を表 3 に示す。令和 6 年度 1～3 年生に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目において「授業に対する評価」の平均得点が 4.0 点未満の科目はなかった。

5. 考察

令和 6 年度に実施された科目のうち「学生の姿勢」の平均得点が、4.0 未満を示したのは、共通科目であった。また、1 年生と 2 年生においては、共通科目と PT 科目 4.0 未満を示し、3 年生では 4.0 点未満の科目はなかった。

質問項目ごとの得点を見ると、共通科目では、問 1「あなたは予習をして授業に臨みましたか」が 3.27 点で前年度と比較して 0.34 点低かった。また、問 2「あなたは復習をして授業に臨みましたか」が 3.46 点で前年度と比較して 0.26 点低く、問 3「あなたは意欲的に質問や発言をしようと思いましたか」が 3.93 点で前年度と比較して 0.19 点低かった。PT 科目は、問 1 が 3.51 点、問 2 が 3.71 点と 4.0 未満であり、前年度と比較して約 0.3 点低い。OT 科目は問 1 が 3.64 点、問 2 が 3.80 点と 4.0 未満であり、かつ前年度よりも約 0.19 点低い。

これらの質問項目の得点は他の質問項目（問 3 マナーを守る、問 4 積極的な発言）等に比べて低いため課題であると考え。「学生の姿勢」の問 1 や問 2 が特に低い理由は、学生の行動を促進する仕掛けが乏しいためであると考え。学生が復習した知識を他者に教える経験を得られる反転授業や、知識の復習を行いながら課題や問題を解決する PBL、グループメンバーで学習テーマを分担して教えあうジグソーなどアクティブラーニングの手法が効果的に実施されていないことが理由として挙げられる。教員がアクティブラーニングの授業手法を、学習して応用し、実践することで教員の資質向上を図る必要がある。

令和 6 年度に実施された科目のうち「授業に対する評価」の平均得点が、4.0 未満を示した科目はなかった。また、1 年生と 2 年生においては OT 科目が 4.5 点以上を示した。

この結果は、過去に行われた授業の改善活動を維持できている事を示していると考え。令和 5 年度

の3年次の共通科目およびOT科目の授業に対する評価の得点は、令和4年度に比較して0.5点以上向上していた。したがって、科目担当教員の説明や用いられる教材、授業の内容、シラバスに明示される事前情報と実際との齟齬、到達度の明確さ、試験の難易度、演習や課題の工夫等を科目担当教員が修正を続け、高い水準で推移していると考えられる。今後も授業および演習の構成要素を持続的に発展していく活動を行っていく必要がある。

表1：授業評価アンケート

分類	問い番号	質問項目
学生の姿勢	問1	あなたは予習をして授業に臨みましたか。
	問2	あなたは復習をして授業に臨みましたか。
	問3	あなたは授業のマナーを守って受講しましたか。
	問4	あなたは意欲的に質問や発言をしようとしたか。
	問5	あなたは自身の授業態度を総合的にみて良かったですか。
授業に対する評価	問6	教員の説明はわかりやすかった。
	問7	授業内容は理解できるレベルであった。
	問8	教員の話し方は聞き取りやすかった。
	問9	教員はビデオ、スライド、プリントや板書などは適切であった。
	問10	教員は準備を十分にし熱意をもって授業を進めた。
	問11	授業内容は学習するに見合った量であった。
	問12	教員は学生の反応や意見を受け入れた。
	問13	授業の要点や議論が明確であった。
	問14	学生便覧のシラバス(授業内容)は参考になった。
	問15	授業内容を理解できた。
	問16	教員は1回ごとの授業に目的をはっきり示した。
	問17	この科目の基礎的な知識技術が身に付いた。
	問18	興味関心を覚える授業であった。
	問19	教員は授業の最初に科目全体の到達度を説明した
	問20	この授業は総合的にみて良かった。